

平成 28 年度 第 18 回講演会 記録

日 時	平成 29 年 1 月 28 日 (土) 13:00~16:00
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	京都大学霊長類研究所 教授・所長 湯本 貴和先生
演 題	熱帯雨林の世界
備 考	参加者数 185 名 (会員 148 名、非会員 16 名) 聴講 21 名、 記録 山野 涉

先生は幼いころから自然に興味を持ち、京都大学で「植物と動物の相互関係」をテーマに植物生態学を研究され、現在は京都大学霊長類研究所で所長として活躍されている。

【講演要旨】

熱帯雨林とは何か？ その定義からはじまり、熱帯雨林と動物の相利共生の姿を多くの貴重な映像を駆使して紹介された。また、現在強い開発の波にさらされ、面積が急速に減少している熱帯雨林は甦るか？について、長年にわたり熱帯雨林とともに生きてきた人々に学び、その智慧を生かすことが不可欠であると述べられた。



た。

1. 熱帯雨林の世界

熱帯雨林とは、「乾季(月 100mm 以下の降水量)が 2 か月半以内しかないところ」と定義され、南米・東南アジア・アフリカの赤道付近にある。全陸地面積の 7% を占めるにすぎないが、陸上の生物種の半数以上を生息させ、生物多様性の中心である。地球上に名のつく生物は 160 万種、一方、未知の生物は 3000 万種あり、その大部分は熱帯雨林に存在するであろうといわれている。しかし、貴重な熱帯雨林が強い開発の波にさらされて、面積が急速に減少するとともに生物種も消滅し、森林植生が劣化しつつあるという。

2. 類人猿の生活

- (1) チンパンジーは人間に近い霊長類で、遺伝子は人間とほんの少し異なるだけだが、人間とまったく異なる生活をしている。親は子供に教えることをせず協力もしない。オス(単数)+メス(複数)+子供(複数)で群れをつくる。
- (2) ゴリラはオス(複数)+メス(複数)+子供(複数)で群れをつくる。若い葉っぱ(繊維)を 4 時間ほどかけて食べ、消化(腸内細菌が分解を手伝いする)のため、休んで寝る生活を送っている。
- (3) オラウータンは群れをつくらず、単身で生活する。

3. 映像で特徴ある生き物が数多く紹介された。

- ①雪国に棲む世界的にめずらしいニホンザル(スノーモンキー) ②ヒマラヤで地衣類(藻類と菌類の共生体)食べるキンシコウ ③アマゾンで靴ペラのような鱗をもつ魚ピラル ④大きな声を出すホエザル ⑤昼行性から夜行性になったヨザル ⑥しっぽがでかいクモザル ⑦巣を持たない軍隊アリ ⑧筒状の花の蜜を吸う 3g ほどのハチドリ ⑨赤くて臭いのしない花ヤブツバキ ⑩何年かに一回花を咲かせるフタバガキ ⑪水中に飛び込むテナガザル ⑫樹から降りないトビカエル ⑬ダンスをするゴクラクチョウ ⑭竹は 60 年一回花を咲かせ、ネズミからの攻撃を防ぐ。乾燥・低温などの異常な気候が生じた時、一斉に開花し昆虫類を呼び寄せる樹木

【所感】

熱帯雨林は多様な生きもので満ち溢れていることを多くの映像を見せていただき実感した。私たちの経済活動による熱帯雨林の危機的な状況から脱し、熱帯雨林と生きものが共生し続けてほしいと思う。

以上